



## 情報への対応

歯学部次長 米原 啓之

授業の資料、各種会議や委員会の記録、大学本部または関係官庁からの通達、さらには臨床や研究での文献調査など、日常業務において様々な情報に接しています。また、普段の生活においてもニュースなどの情報に接します。

この情報源として、従来の新聞、雑誌、テレビおよびラジオに加えて最近ではインターネット検索サイトなどの利用が増加しています。インターネットを介した情報は、情報を一方的に受け取るのではなく、発信も行える点で従来の情報とは異なる面があります。また、直接的な情報伝達であるためにフェイクニュースなどのように検証が十分でないものもあります。

われわれは、活字として発表されたものや新聞社など著名な発信源からの情報について、無批判に信用してしまう傾向があります。医学情報でも、速報性を重視するあまり過大な表現や実験的方法をあたかも確立した内容のように表現するなど、誤った情報も見られます。

情報を正しく判断するには正確な知識を持たなければなりません。また、情報を活用する能力も必要です。われわれには歯学領域の専門家として、医学情報を正しく判断することが求められます。そのために、正確な知識を身につけ、それに基づく判断が出来るようにして、情報利用について自分自身の知識や行動を見直すことが必要だと感じています。

(教授 臨床医学講座)

## 新付属歯科病院での診療が開始！

病院長 宮崎 真至

これまで、歯学部2号館の病院施設は、昭和39年から使用されてきたものを幾度かの改装を経て平成30年の9月まで、近年では年間20万人を超える患者に対して診療を行う場として機能してきました。この54年という長い歴史は、多くの患者に対する歯科医療の提供を行ってきたとともに、歯科医師育成に関しても大きく貢献してきたことを意味するものです。これだけの長い歴史を持つ2号館病院校舎ではありますが、建築物の老朽化に関しては補修を行うにしても限界があることが否めないという状況でした。そこで、最新の医療設備を充足させるとともに耐震性などの建築物に必要とされる要求事項を考慮して、新病院が必要と判断されたわけです。そのような新校舎建設にかかわる背景から建築計画が進められ、平成30年10月1日に新病院として診療が開始されることとなりました。

新校舎としての「本館」建設は、学部創設100周年の記念事業として、旧駿河台日本大学病院跡地に1期工事として新歯科病院をメインとする建物が本年6月に竣工しました。本年10月以降は、旧歯科病院（現2号館）を解体し、その跡地に学部教育全般と研究機能を担う新校舎棟として「歯学部本館」が建築される予定となっています。本館建築の2期工事は平成33年に竣工予定とされており、教育と診療とが一体化した新たな歯学部のスタートが切られることになるわけです。したがって、2期工事の終了までには、スチューデントドクターの診療参加型臨床実習を含め、実習室を使用する基礎科目に関しても、学生には校舎間の移動面において少なからずの負担を強いることにはなりませんこと、ご理解を頂ければと思います。

本館における1期工事完成部分に関しては、地下2階、地上7階となっており、その1～4階を歯科病院として患者診療に使用しています。このうち1階は、専門診療室Ⅰ、クリーンルーム、摂食機能療法、特

殊診療および歯科放射線診療などが配置されています。また、2階の専門診療室Ⅱでは、保存系診療を中心として学生診療および小児歯科診療が、3階の専門診療室Ⅲでは補綴系診療を中心として研修診療、予防および歯科矯正などが行われます。そして4階の専門診療室Ⅳは口腔外科系診療とともに、手術室および病棟機能を担っています。また、学生や教員が使用する技工室は2階に、中央技工室は3階となっています。

各階における歯科診療ユニット数は、1階が11台、2階が54台、3階が59台および4階が20台の、合計144台での診療体制となり、基本的にはオープンユニット制としてユニット予約にフレキシビリティを持たせています。すなわち、歯科インプラントなどの小手術は4階のフロアを使用するなど、各階の診療室を横断的かつ機能的に使用し、診療面における利便性を高めるようにしています。

新歯科病院における診療室は、歯科診療ユニットごとにパーティションで仕切られています。半個室的環境での診療を行うとともに、可能な限り個室における処置を可能とする診療室の配置となっています。診療に際しては、Hospital Information Systemという考え方に本学部ならではのホスピタリティを活かすことで、来院する多くの患者にとって満足する環境を提供することを目指しています。

歯科診療ユニット数は旧付属歯科病院と比較すると少くなりましたが、日本大学歯学部の名を冠した付属歯科病院として、丁寧であるとともに最新の歯科医療を提供できる環境に整えられています。また、これから生じる可能性のある問題点に関しても、教職員が一丸となって対応することで、来院患者の満足度を高めるとともに、教育病院として知識と技術および高い倫理観を備えた歯科医師の育成に努めていく所存です。 （教授 歯科保存学第Ⅰ講座）





## IADR参加で訪れたロンドン

川戸 貴行

2018年7月25日から28日にかけて英国ロンドンで開催された第96回 IADRに参加しました。学会会場は、大英博物館などがあるロンドン中心部からやや離れた場所に位置し、ホテルから会場までの移動には地下鉄をいくつか乗り継ぐ必要がありました。ロンドンの地下鉄は便利と聞くものの、数年前に同学会で訪れたアメリカ・ボストンで路線区間や切符の買い方が分からず苦労したこともあり、初日はやや不安な気持ちで駅に向かいました。複雑に入り組んだ路線も色別に表示されてわかりやすく、ICカードによる改札システムで非常に利用しやすかったです。

歯科のあらゆる分野の研究が発表されるIADRでは、ひと昔前は、分厚い抄録集のページを忙しくめくっては目的の演題の発表日時と部屋を調べる必要がありました。数年前からはWebページ上で事前に検索することが可能になり、今では、学会が提供する携帯端末用のアプリを使って会場内で瞬時に情報を確認することができます。一方で、ポイントを定めずにポスター発表会場を一通りめぐると、研究の切り口や結果の提示の仕方、こうも印象が異なるものかと勉強になりました。

2日目には学会の合間を縫って、疫学研究的の始まりとされるブロードストリート事件のゆかりの地を訪れました。1854年、ロンドンの繁華街で疫病が流行した際、麻酔科医のジョン・スノー博士は発症者が認められた地点を街の地図に記録して、ブロードストリートにあった井戸水の供給場所に近い程、発症者が多くなることを明らかにし、井戸水のポンプを止めることで事件を解決しました。地図アプリを頼りにその場所を訪れてみると、博士の名前が付いたパブがあり、訪れたのが夕刻ということもあって大変な賑わいでした。ポンプの像の前で記念撮影。良い記念になりました。

(教授 衛生学講座)



スノー博士の名前がついたパブの前にある井戸水ポンプの像

## The 96th General Session & Exhibition of the IADRに参加して

野間 昇

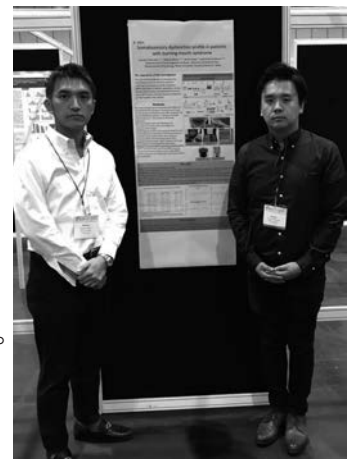
2018年7月25日～28日、イギリスのロンドンで開催されたThe 96th General Session & Exhibition of the IADR (第96回国際歯科研究学会議)に参加して参りましたので、ご報告いたします。

東京では記録的な猛暑が続く中、ロンドンに到着した日の気温は30度以上で、東京と同じような暑さを感じましたが、日を追うごとに過ごしやすい天候となりました。本学会は最大の歯科国際学会であり、世界中から臨床家や臨床・基礎研究者が集まります。本大会では約4000人の参加者が登録されており、日本人も500人以上参加されていたと推測しています。これまでのIADRの学会では、Dental Material、Orthodontics、Prosthodontics、Periodonticsなどの内容が大半を占めていましたが、本大会では、Neuroscience、Orofacial pain、Oral medicine、Diagnostic sciences 関連のシンポジウム、一般口演、ポスター発表が数多く見られ、最新の研究情報を入手することができました。当講座からは、Diagnostic Sciences Sessionで『Use of Cutaneous Electrical Stimulation to Induce Temporal Summation in Healthy Volunteers』の演題を、Orofacial pain Sessionでは大学院の渡邊広輔先生が『Somatosensory dysfunction profile in patients with burning mouth syndrome』の演題を発表しました。

発表は健康被験者を用いた臨床研究、BMS患者のデータを用いた研究内容でしたが、世界各国の研究者とディスカッション、情報交換をすることができ今後の研究の励みとなりました。なかでもOrofacial pain分野で活躍されているNixdorf, D.R先生(ミネソタ大学歯学部診断学講座)から当講座の研究に興味を示していただき、今後共同研究を行いたいとオファーをいただきました。

また学会期間中に以前私が留学していたRutgers大学のボスEli Eliav先生(現:Rochester大学Dean)に会うことができ、一緒に参加していた今村教授と共につかの間の再会を楽しみました。

(准教授 口腔診断学講座)



## 被爆者の話

野口 邦和

5月1日、長崎の被爆者である田中熙巳先生の講義を聴講した。1年生の「歯科医学序論I」の講義の一環として行われたもので、被爆者がその体験を歯学部学生に語ったのは初めてのことはないか。

田中さんは旧満州（現中国北東部）で1932年に生まれた。陸軍軍人の父が亡くなったため、一家は長崎市の親類を頼って帰国した。45年8月9日、田中さんは爆心地から3.2kmの自宅2階で被爆した。爆風で飛んできた格子戸やガラス戸の下敷きになり、気を失った。同月12日に爆心地から700mに住む伯母の死を伝え聞き、母と伯母の家に行った。伯母の家は潰れ、伯母の遺体はトタン板の上に載せられ、焼かれていた。祖父は顔や手足の骨が見えるほどの重傷を負い、同月15日に亡くなった。伯父も同月21日に亡くなった。帰省中の東京帝大生の従兄も遺体で見つかった。帰り道、焼け跡には数え切れない黒焦げの遺体があり、用水池には風船のように膨れた遺体が折り重なって浮かんでいた。

頼りにしていた親類を原爆で失い、母子家庭を待ち受けていたのは貧困だった。大学に進学したが、学費がなかった。51年に高校を卒業し、単身上京し、東大生協で働きながら受験勉強をした。54年、第五福竜丸が米国の水爆実験で被災したのをきっかけに「大学で核や原爆について学びたい」との思いを強くし、56年に東京理科大学物理学科に入学した。60年に大学を卒業して東北大学工学部の研究助手になり、研究と被爆者運動の両方を続けた。96年に助教として定年退官後、日本原水爆被害者団体協議会の事務局長として原爆症認定をめぐる集団訴訟を推進した。「どうしたら核兵器をなくせるか、そればかり一生懸命考えている毎日」という。

（兼任講師 歯科放射線学講座）



## 医療情報コーナー

### 歯科診療での禁煙支援の位置づけ

尾崎 哲則



東京オリンピック・パラリンピックまで、2年を切り、いろいろな準備が日本国内で進んでいます。その中で、“Smoke Free（煙なし：禁煙という意味です）な環境”を推進するために、健康増進法の改正及び東京都条例の

制定がされました。これらにより、受動喫煙防止に関して、国際基準よりは甘いものの一応の形ができました。

さて、喫煙が、歯周疾患の罹患及び進行に大きな役割を持っていることは、すでに歯科界では常識になっています。また、口腔がんの多くも、喫煙との関連が指摘されています。しかし、歯科診療での禁煙支援（禁煙治療）は、現行の公的医療保険制度では適応されていません。当然、疾病の進行に影響あることを抑止する医療行為は、通常、公的医療保険制度で適応されて、診療報酬がつきます。その意味では、歯周疾患の治療等に関し保健指導として禁煙指導することは重要です。これを、公的医療保険制度で認めていないわけではなく、いわゆる歯周疾患への保健指導（ブラッシング指導と同様の扱い）としては認めています。

ここでの「鍵」は、「喫煙が、ニコチン依存症から起きる行為」とされていることです。ニコチン依存症は、国際疾病分類（ICD10）の中で、精神性薬物依存症の一部とされています。そして、薬物依存に対する治療行為は、医科の診療行為とされているため、ニコチン依存症に対する治療を歯科の業務として認めていないわけです。

今後、歯科での禁煙支援に診療報酬が別途算定されるようになるためには、例えば、「タバコ性歯周病」といった病名が必要です。この疾患を治療するために禁煙支援するということになれば、「歯科禁煙支援」

に診療報酬もつくこともあり得ると考えられます。

なかなか、一筋縄ではいかないのが、我が国の医療保険制度です。

（教授 医療人間科学分野）





## 平成30年度教学課題研修会

高津 匡樹

本年8月7日に、平成30年度教学課題研修会が開催されました。本研修会は、教員のFD (Faculty Development) 活動推進を目的に、学務委員会、FD委員会、臨床実習運営協議会など多数の委員会が合同で開催しているものです。今回の研修会は、「国家試験問題への理解につながる診療参加型臨床実習を考える」をテーマとして、学習指導委員会委員を含む比較的若手の教育診療医24名が参加し、ワークショップ形式で行われました。

国家試験合格率の引き上げは、本学部の教学に関する課題の一つとなっています。その対策として、臨床実習を行う第5学年では、歯科学統合演習Ⅴが通年で実施されています。一方、最近の国家試験における臨床実地問題は、順序問題が新たに導入されるなど、診療参加型臨床実習（指導歯科医のもとで学生が実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習）で得た能力をより適切に評価する意図で出題されています。そのため、診療参加型臨床実習をさらに充実させることが、国家試験合格率の引き上げにつながるものと考え、今回のテーマが選定されました。

ワークショップの実施に先立ち、学習指導委員会副委員長の黒川先生に、第111回歯科医師国家試験の自己採点分析結果についてご講演いただき、本学部における正答率の傾向などをお話いただきました。また、討論の活性化を促すため、臨床実習を担当する各診療科の先生には、学修内容や指導方法、評価などについてご説明いただきました。

ワークショップでは、教育診療科ごとにグループを編成し、短時間ながら濃密な議論が行われました。今回の研修会の成果は、各科でさらに詳細に検討し、来年度のカリキュラムから反映させていく予定です。

(准教授 歯科補綴学第Ⅰ講座)



## 新任教員FDセミナー

西尾 健介

本年5月19日に日本大学会館にて、「新任教員FDセミナー2018」が開催された。本セミナーは日本大学FD推進センターが新規採用教員を対象として毎年開催しているものである。開催の目的は高等教育を取り巻く環境の変化、大学教員の役割・責務を認識するとともに、本学の教育理念及び教学施策を理解することとされている。私を含めた10名の歯学部新任教員が本セミナーに参加した。まず初めに日本大学FD推進センター副センター長である松戸歯学部河相安彦教授より“日本大学の教育と教育改善活動 教育理念と日本大学教育憲章を踏まえた人材育成に教育改善活動がどのように関わるか”という題目でご講演を賜った。講演では、はじめに現在求められている大学のあるべき姿についての話があり、その後、日本大学としてどのようにその問題に取り組み、教員としてどういった教育を展開すべきかを「日本大学教育憲章」に基づき学んだ。学部の枠を越えて大学の教職員が共通の教育認識を持つことは重要であり、また大学の教育理念に基づいた授業法の指導は講義を行うにあたりとても勉強になった。

セミナー後半では本学部医療人間科学分野中島一郎教授より“日本大学教育憲章を基軸としたシラバス作成”という題目でご講演を賜り、シラバス作成の要点について学んだ。その後、スモールグループディスカッションが行われ、参加者は各グループに分かれ、「初年次教育プログラム」をテーマにKJ法を用いて意見をまとめ、実際にカリキュラムのプランニングを行った。様々な学部の先生方とのディスカッションを通じて、「初年次教育の意義・必要性」や「自主創造型パーソン育成の意義」について多くの知見を得ることができた。またグループディスカッションの最後には、各班の成果をプレゼンテーションし、自分では思いつかない様々な角度からのカリキュラムプランニングを学ぶことができ、とても有意義な時間であった。本セミナーで得た様々な知見をもとに、日本大学歯学部の教員として「自主創造の理念を備えた歯科医師」の育成に貢献できるよう日々尽力していく所存である。



(助教 歯科補綴学第Ⅰ講座)

# 随 想

## 「長いモラトリアムだと 思っていました」

升谷 滋行



私が卒業した頃は、時代が全く違います。国家試験に合格し目先が利き経済的に恵まれ、バイタリティに溢れた仲間は、将来に有利な道を選び、すぐに走り出しました。走りながら考えて歯科医院を開業し稼ぐのが、

ごくあたりまえの道筋とされていました。

それに乗れない私は、彼らを横目に見ながら、歯科医師免許があれば生計は立つ。学位を取得し、大学病院で臨床的なスキルを磨く。給料がもらえれば、なお良いと勝手に思い描いていました（今なら、お叱りを受けること必定です）。この世から人は居なくなることは無い。人と直接関わる仕事をしていれば、食べられる。未来像はわからないが、自分の人生は自分で決めれば、失敗しても諦めはつく。面白そうな（興味深い）ことを探して生きていこうと決めました。

歯科医師として厳しい社会に出て行くために必要な準備期間のモラトリアムでした。準備をしているうちに、世の中は想像以上に劇的な変化をし、画期的なものが次々と生み出され、追いつくのに精一杯でした。

医療では、診断・診療に道具としてコンピュータ使用は想像できましたが、近い将来、AIに取って代わられるなどは考えもおよびませんでした。現在、手術支援ロボット da Vinci による低侵襲性の手術法が頻繁に行われています。また、自然言語を理解・学習し人間の意思決定を支援する Cognitive Computing System IBM Watson が、医師に正確で迅速な診断と治療方針を提案したとの報告もあります。本学でも研究サークルを立ち上げ、歯科診療・教育支援システム開発に乗り出しました。

長いモラトリアムだと思っていました。結局、歯学部から社会に出ずに今日に至るまで、面白そうなことを見つけては、学習を継続していたことに気づきました。今に全力を尽くすことで能力を養い、面白いことをやりながら楽しく過ごす人生、当たりくじを引き当てたのかもしれない。

（教授 総合歯科学分野）



## 2018 Journal of Endodontics Awards 受賞式に参加して

野間 昇

米国デンバーで4月25日に行われた米国歯内療法学会AAE18: 2018 Journal of Endodontics Awards 受賞式に参加してきました。AAE18の会場は「青クマの巨大アートディスプレイ」で有名な Colorado Convention Center で開催されました。歯内療法学会分野において、最高峰のジャーナルは international endodontic journal と Journal of Endodontics (JOE) の二大巨頭といえます。昨年、共著者の歯科保存学第Ⅱ講座の林誠先生とともに「Painful Trigeminal Neuropathy Attributed to a Space-occupying Lesion Presenting as a Toothache: A Report of 4 Cases」を JOE に投稿し、アクセプトとなり掲載にいたりました。The AAE18 annual meeting では我々の論文が Case Reports/Clinical Techniques の部門で光栄にも the best article として選出されました。

受賞式は Colorado Convention Center の近くにある the Hyatt Regency Denver で行われ、5人の受賞者が順次登壇し表彰されました。JOE editor in chief の Ken M. Hargreaves から Case Reports/Clinical Techniques の部門で脳腫瘍による空間占拠性病変三叉神経ニューロパチーの症例では、歯痛が初発症状のこともあり、痛みの特徴聴取、脳神経スクリーニング、MRI 撮影を行うことが、治療には脳神経外科、神経内科、心療内科との連携が重要であると我々の論文を通して説明がありました。その他のカテゴリーでは Zhong S が Basic Research: Biology, Connert T が Basic Research: Tech-nology, Schloss T が Clinical Research, Lin J が Regenerative Endodontics の分野でそれぞれ表彰されました。受賞した臨床家・研究者は Big-name でいささか気後れしましたが、Ken M. Hargreaves をはじめ、受賞された先生方と意見交換させていただき、有益な情報を得ることができました。

（准教授 口腔診断学講座）





## 歯科医学序論

三澤 麻衣子

本年度から『歯科医学序論』という教科がはじまりました。第1学年の通年に渡って、「歯科医療とは何か」そして「現在の歯科医療のおかれている現状」を学ぶことで、将来なるべき歯科医師としての責任と役割について自覚することを目標としています。

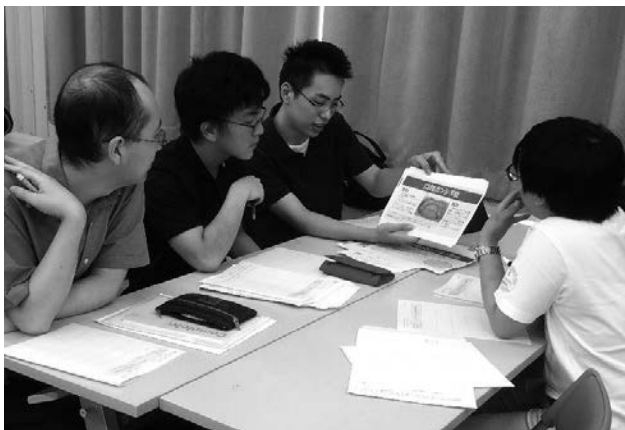
そのため、多くの専門科目の教授および外部講師にご協力いただき、第1学年という歯科医師のスタートにいる学生に伝えるべきことを熱く講義していただくようお願いしました。

前期が終了しましたが、講義をしていただいた先生方の歯科医療や社会の発展に尽力する姿勢を感じられたのではないのでしょうか。

また、前期には、講義後に事前に設定した課題に対して学生の小グループによる意見交換を行いました。高校生であったときのような一般的な意見ではなく、歯科医療担う学生として自覚ある意見を多く聞くことができました。

第1学年だから、専門的な内容が分からなくてよいというのではなく、歯科医師という専門職に足を踏み入れた自覚を持ち、自分で理解していこうという意欲が大切だと考えています。学生の小グループによる意見交換においては、事前にどれだけ考えてこられたのか、課題（レポートやポスター発表等）においては、図書館等を活用するなどして事前にどれだけ情報を集められたのか、いわゆる予習をどれだけ本気でしてきたのが本教科の成果として現れてきます。予習が十分であれば、講義内容と合わせてより深い知識や意見を持った医療人に近づけたはずです。歯科の専門家を目指す学生達には、歯科への興味をこれからも日々欠かすことなく6年間を過ごしてもらえたらと願っています。

(専任講師 医療人間科学分野)



## 「旅猫レポート」 有川 浩

稲葉 瑞樹

猫が好きだ。自分の家の猫でも野良猫でも、猫と見るとしゃがみこんで話かけるくらいには。猫好きな私からすると、猫を題材にして涙を誘う本を書く行為はこの上なく卑怯だと思う。だって、猫はズルいよ、猫は。そんなもん、絶対泣くに決まっている。わかってはいつつも、書店でつい手にとってしまった作品、それが『旅猫レポート』だ。

あらすじは至ってシンプル。野良猫のナナは、瀕死の自分を助けてくれたサトルと暮らし始めたが、とある理由でナナのことを手放さなくちゃいけないサトルは、愛猫のナナと共にその引き取り手を探す旅に出る。この小説ではその旅で起きた出来事をナナ視点からレポートしているのだが、もうね、読み始めた初めころからこの本は泣くだろうなという予感がビシビシ伝わってきていた。読み進めるとやはり泣いてしまった。でも、悲しくて泣けるのではない。あたたかさや優しさで泣ける。電車の中では読まない方が良いと思う。

作中には、そうそう、猫ってそういうところあるよね！と猫好きが思わずテンションが上がってしまうような、いくつもの猫あるあるが散りばめられていたり、猫ってこういう時、そう考えているかもしれないと思わずにはいられないリアルな猫視点が魅力。ナナの飼い主のサトルを含め、旅先で出会うサトルの旧友や動物達とのやりとりも、とても優しくてほっこりする。

猫好きさんには是非とも読んで欲しい、勿論、猫好きじゃない人にも読んで欲しい、心温まる作品。やっぱり猫はずるいよね。

近々、全国ロードショーらしいので、原作と比較してみると面白いかも。 (助教 歯科矯正学講座)



## 第50回全日本歯科学生総合体育大会 総合成績

順位	大学名	得点
優勝	愛知学院大学歯学部	134.25点
準優勝	九州歯科大学	124.25点
3位	日本歯科大学生命歯学部	113.50点
4位	大阪歯科大学	108.50点
5位	日本大学歯学部	103.54点

### 本学部が得点した部門 (上位2位)

#### 夏期部門

1位	水泳 陸上競技	20点 19点
2位	バスケットボール	14.5点

#### 冬期部門

1位	スキー	19点
----	-----	-----

### 夏期・冬期部門の個人種目等入賞者

#### 水泳部

**優勝:** 浅見里菜4年(女子50m自由形、女子100m自由形)・菊池礼奈3年(女子200m自由形、女子400m自由形)・手塚悠3年(女子50m背泳ぎ)・浅見里菜4年/手塚悠3年/菊池礼奈3年/松永彩3年(女子200mメドレーリレー)・菊池礼奈3年/手塚悠3年/浅見里菜4年/松永彩3年(女子200mフリーリレー)・菊池礼奈3年/松永彩3年/手塚悠3年/浅見里菜4年(女子400mフリーリレー)・手塚悠3年/内藤貴大5年/菊池礼奈3年/吉川智弥1年(混合200mメドレーリレー)

**準優勝:** 松永彩3年(女子50m自由形、女子100m自由形)・手塚悠3年(女子100m背泳ぎ)

#### 陸上部

**優勝:** 峯村祐貴3年(男子200m)・入江亮輔1年(男子800m・大会新、男子1500m)・相川徹郎3年/金井敦紀2年/相川慶郎3年/峯村祐貴3年(男子4×100mR)・相川慶郎3年/金井敦紀2年/峯村祐貴3年/入江亮輔1年(男子4×400mR)・相川慶郎3年(男子走幅跳)

**準優勝:** 井上将一4年(男子5000m・男子3000mSC)・入江亮輔1年(男子400mH)・石川博昭6年(男子走高跳)・相川徹郎3年(男子円盤投)・市川熙5年(男子やり投)・大倉万莉菜1年(女子やり投)

**3位:** 峯村祐貴3年(男子100m)・金井敦紀2年(男子200m)・井上将一4年(男子1500m)・相川慶郎3年(男子400mH)・市川熙5年(男子砲丸投、男子円盤投)・相川徹郎3年(男子やり投)・桐戸美佳4年/村上ゆい1年/北原諄子6年/須藤日菜子1年(女子4×100mR)

※参考 R…リレー、H…ハードル、SC…障害

#### スキー部

**準優勝:** 瓦井海年5年(男子スーパー大回転、男子回転、男子大回転)

#### 日本拳法部

**優勝:** 山口良輝4年(男子個人戦)

**準優勝:** 堀之内結3年(女子個人戦)

#### ソフトテニス部

**優勝:** 清水誠基4年/岩佐幸範1年(男子ダブルス)・齋藤瑞花6年/大熊理沙子5年(女子ダブルス)

#### 洋弓部

**優勝:** 小野寺博俊1年(男子個人戦)・山本明昇1年(男子新人戦)

**準優勝:** 片海圭央1年(女子新人戦)

**3位:** 高木皓介1年(男子新人戦)・遠藤優香1年(女子新人戦)

#### 剣道部

**準優勝:** 宮澤佑晟3年(男子個人戦)

**3位:** 森俊樹2年(男子個人戦)

#### 柔道部

**優勝:** 加藤博之5年(男子個人66kg級)



### 歯学体を終えて

正評議委員 仮谷 仁志



神奈川歯科大学の主管にて行われた第50回全日本歯科学生総合体育大会が8月10日の閉会式をもって終了となりました。日本大学歯学部の順位は第5位と昨年から2つ順位を落とす結果となりました。一昨年まで3年

連続総合準優勝、昨年は第3位で節目である第50回こそは5年ぶりの総合優勝を目指していたために悔しい結果となってしまいました。

ただ、オールデンタルを通して悔しさだけでなく様々な貴重な体験ができたと思っております。1年生から6年生までの部員が一丸となって「優勝」という一つの目標に向かって頑張った経験や時間はとても大事なことだと思います。部員同士での楽しい思い出や共に味わった辛く厳しい練習など、選手・マネージャーが共有した多くの時間は結果に関係なく良い思い出となり、今後の人生を振り返った際に大きな財産となるでしょう。

今年優勝し最高の喜びを感じられたクラブは、来年もまたこの嬉しさを味わうために、今年満足のいかない結果だったクラブは、負けたときの悔しさを忘れずに、また来年度のデンタルに向けて部員全員が一丸となって頑張ってください。そして第51回のオールデンタルこそ、総合優勝の優勝旗と優勝カップを全員で持ち帰ってきましょう。

また、最後になりますが歯学体正評議委員としてこの1年間関わらせていただいた各クラブの皆さま、ご指導いただきました先生方、ご支援いただいた後援会の皆さまには大変感謝しております。この場を借りて深く御礼申し上げます。(第5学年)





## 優勝 水泳部

主将 浅見 里菜

昨年のオールデンタル終了後に、4連覇という目標を掲げてから早くも一年が過ぎました。今振り返ってみるとあつという間の一年でしたが、楽しいことはばかりではありませんでした。しかし、4連覇という目標だけは決して見失わず、常に前に進み続けました。そして迎えたオールデンタル。事前の戦力分析では2位。焦りはありましたが、今までやってきたことを信じ、一人一人が全力を尽くしました。その結果、2位に約30点の差をつけて優勝することができました。この結果は、部員はもちろん、OB・OGの方々、学校関係者の方々、関わってくださった全ての人のお陰です。本当にありがとうございました。

(第4学年)



## 優勝 陸上競技部

主将 相川 慶郎

今大会は主管を担うこととなり運営と練習を並行して準備してまいりましたが、お陰様で4連覇を達成することができました。当日は、東京陸上競技協会の方々や保健体育審議会陸上部の学生、OB・OGの先生方、多くの方々に大会運営でご協力をいただき、部員は総合優勝に向かって競技に集中することができました。その結果、一人一人がそれぞれの実力を十分発揮でき、2位に34点という大差をつけ総合優勝を果たすことができました。

今後も5連覇を目指し、さらなる努力と鍛錬を積んでいきたいと思えます。応援して下さった皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。(第3学年)



## 準優勝 バasketボール部

主将 石田 雄平

この度のオールデンタルでは男子部門10位、女子部門1位により総合順位は2位という結果になりました。これもひとえに応援して下さった皆様のおかげと、深く感謝しております。男子は今年のリベンジを果たせるように、女子は3連覇できるように、そして総合優勝できるように頑張りますので、引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。(第3学年)



## 第3位 日本拳法部

主将 石川 征尚

この度のオールデンタルでは、団体部門3位、個人戦1位、女子部門2位という結果になりました。これもひとえに応援して下さった皆様のおかげと、深く感謝しております。個人戦でも団体戦でも女子戦でも今年より良い成績をのこせるように男女ともに頑張っていくので、引き続きご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。(第5学年)



## 第3位 洋弓部

主将 細田 清道

日本歯科学学生総合体育大会洋弓部門は8月3～5日に例年同様、静岡県掛川で行われました。しかし、昨年とは異なり我々選手にとって大きな関門となったのは猛暑でした。

洋弓は体力と集中力を要するスポーツです。そんな暑さにも負けず、部が一丸となり、男子団体2位、女子団体3位、団体総合3位。新人戦においては男子3人女子4人入賞という素晴らしい成績を残すことができました。

逆境に負けなかった洋弓部であれば、今後どんな事も乗り越えられると思えます。(第4学年)



# クラス短信

## 第1学年 平田 隼輝

期待に胸を膨らませて、本学部に入學しました。あれから数か月が経ち、徐々に學生生活に慣れてきたと感じます。最初に軽井沢へ校外オリエンテーションに出掛け、沢山の友人が出来ました。クラブ勧誘では、先輩方が沢山の時間を使って様々なイベントを企画して下さい、その中から私は硬式野球部を選びました。クラブ活動が決まるとすぐに球技大会があり、他のクラブや、附属の専門学校生ともコミュニケーションを取りながら、リフレッシュすることが出来ました。前期の授業が終わると、合宿とデンタルが行われました。合宿では、実践的な練習を中心にチーム全体でレベルアップを図ることができたと思います。そして迎えたデンタルでは、1年生ながら試合に出させて頂き、結果はベスト4でしたが、打線の中軸として活躍することが出来ました。これから始まる後期でも、勉強と野球に真摯に向き合い、どちらも好成績を残せるよう努力して行こうと思います。

## 第1学年 高橋 遼太

入學してから数か月が経ち、忙しい大学生活にも慣れ、友人もたくさんできました。

この日本には、「住めば都」ということわざがあります。私は本学部に入學してから、このことわざの意味を実感しました。本学部は他大学や他学部と比べて、医療人になる者として必要な課題や勉強、授業の量がとても多いです。しかしながら、友人と勉強を教え合い、課題をこなし、そこから新たな友情が生まれたりします。私自身の体験を例に挙げると、第1講堂や図書館で勉強している時に「わからない所があるから教えてくれない？」と同学年の人から声を掛けられたり、私からも声を掛けたりしました。様々な友人に助けられながら前期を終えることができた実感しています。このようなことから、いざ辛い環境に身を置いても、その中にも楽しさや居心地の良さを発見できていると感じています。



## 第6学年主任 川戸 貴行

最終学年としての卒業と歯科医師国家試験に向けた取り組みは、年度が新たになる前の支援模試から始まり、今、折り返し地点を過ぎようとしています。統合演習Ⅵを柱とする、それまでの学年とは段違いの質と量のカリキュラムがスタートした当初は、プレッシャーに押し潰される人もいたのではと不安な思いがありました。しかし、講堂の様子を見るといつも多くの笑顔があり、今では、この学年が持つ大切な雰囲気は、国家試験まで増し続けるプレッシャーをも包み込む強さなのだと感じています。

教壇に立つ教員、ティーチングアシスタントを受け持つ大学院生、そしてクラス担任は、それぞれの立場から全力で応援しますが、ハードルに挑むのは皆さん自身です。全体としては大らかな雰囲気にあっても、一人ひとりに視線を移せば誰もが様々な問題を抱え、追い詰められた気持ちになることも何度となくあると思います。その様な時こそ、仲間が側にいることを忘れず、互いに励まし合いながら、気持ちを立て直して一歩ずつ前に進んでください。難関を仲間とともに乗り越えたという経験は、卒業後に直面する様々な困難に立ち向かう上でも必ず力になります。

一方で、これからは国家試験までに残された時間を見据えながら、効率よく苦手を克服してすべての項目を仕上げていく必要があります。スポーツでは、トーナメントやリーグ戦で頂点に至るまでの過程で、度々「勝てる雰囲気が出てきた」といった表現を耳にします。この学年の強みである大らかさが弱点とならないためにも、これからはムードメーカーとペースメーカーの役割が重要となります。その役を担う者を中心として学年全体が積極的に取り組むことで、自ずと大らかに適度な緊張感がプラスされ、勝てる雰囲気を持った集団になると思います。多くの笑顔と真に大らかな雰囲気に包まれて、3月のその日を迎えることを楽しみにしています。

(教授 衛生学講座)





## SCRP 日本代表 選抜大会出場

藤原 由

平成30年度日本歯科医師会/デンツプライシロナスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会が、8月24日に歯科医師会館にて開催されました。私は、「歯肉上皮細胞の短鎖脂肪酸誘導細胞死および関節リウマチ誘導因子の放出には活性酸素産生が必要である」"Short-Chain Fatty Acids Induce Death in Gingival Epithelial Cells and Release Rheumatoid Arthritis-Inducibile Molecules by Generating Reactive Oxygen Species"を研究テーマとして生化学講座にて研究をして参りました。結果は、上位入賞はなりませんでしたが、1つのことを突き詰める楽しさや難しさ奥深さを知り、そして何より同じ学生として研究をしてきた人達と出会い、とても貴重な経験となりました。

「研究がしたいんだ!」と初めて生化学のドアを叩いた日を今でも覚えています。振り返るとあっという間で、様々な経験をした日々でした。初めは右も左も分からない中、原理を調べ、仮説を試して、思い通りにならない結果に試行錯誤しました。英語の論文を探し、1つずつ調べながら読んでいきました。慣れないピペットを持つ手が震えていたのを覚えています。次の日のテストへの不安を頭の片隅に追いやり、期待通りの結果が出るかどうかわくわくしながら手を動かしていました。当日は、この魅力的で大変面白い研究内容を一人でも多くの方に伝えたいと、この先の研究への足がかりを少しでも作れたらいいなという想いでいっぱいでした。

最後に、お世話になった先生方、心の支えとなる応援をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。この経験を糧に、今後とも更に精進して参ります。  
(第5学年)



## 海外短期研修 エリザベスタウン・カレッジ

小野澤 知也

私は8月1日から約3週間、アメリカのペンシルベニア州にあるエリザベスタウンカレッジに短期海外研修に行ってきました。私自身、これからの歯科医師はグローバルな視点を身につけることが必要不可欠だと思い参加を決意しました。

研修では、主に午前中と午後に英語の授業があり、夕飯後に英語のニュースを見てそれについて議論するといった流れになっていました。休日になると、リトリート、ワシントンDC、ニューヨークを訪れるなどのアクティビティなどもありとても充実した3週間でした。

まず、大学に到着して感じたことはとてつもなく広いということです。まるで街の一部がそのまま大学になったかのような構造で早速アメリカを感じた瞬間でした。授業では机に向かうというより、より多くの発言が求められるといった方式でここでも日本との違いを痛感しました。リトリートなどでは現地の人との生の会話がが多く、授業で習ったことのアウトプットといった場面もあり英語の学習としてもかなり身になったと思います。

中でも、印象的だったのが研修最終日にニューヨークに行った日のことでした。ニューヨークでは自由時間が多く与えられ、自分達だけで街を回ることになりました。しかしニューヨークはとても迷いやすい街の構造だったため案の定迷ってしまいました。そんなとき現地の人に道を聞いていると、3週間弱あって少し自分の英語力が上がっていると感じられたことを覚えています。

最後に、このような素晴らしい経験を提供してくれた日本大学並びにエリザベスタウンカレッジに感謝の意を表します。  
(第2学年)



## オピニオン

○医局に入局し早6ヶ月が過ぎ、大学院の講義や上級医の先生方の治療を見学したり、治療に関するアドバイスを頂いたりとは違う環境で色々なことを学べていると感じています。先日、口腔顔面痛学会にて初めてのポスター発表の機会を頂きました。抄録、ポスター製作からはじまり分からないことだらけでしたが、先生方のお力添えの下無事に発表を終えることが出来ました。初参加の学会は、緊張もありましたが、日本のみならず海外の先生方の講演を聞き、貴重な2日間を過ごすことが出来たと感じています。常に、探究心、向上心を忘れず邁進していきたいと考えています。

**(大学院1年 小笹 佳奈)**

○私の1日は研究室に着きコーヒー豆を挽くことから始まります。豆を挽く音で気を引き締め、挽きたての良い香りをかぎつつコーヒーを淹れていると段々と仲間が集まってきます。研究室で自家焙煎した美味しいコーヒーを朝から楽しんだら実験開始です。午後になり実験がひと段落するとちょうど教室の花板先生が魚をさばいている頃です。大学院に入学してから日々の実験の傍らで魚の修行も始め、研究で悩んだときには良い気分転換になっています。気分転換を終えたらパソコンの前でデータや論文と向き合う時間が訪れ、一朝一夕では終わらない研究生活を痛感しますが、先生方、先輩方に支えられ大学院生活を楽しんでいます。

**(大学院2年 梶原 美絵)**

○大学院3年生になり、大学院生活の半分が過ぎました。大学院に入学した当初は、臨床も研究もわからないことばかりでしたが、先輩、同期、後輩など沢山の方に支えられ、ここまでやってこれたと感じています。これまでの大学院生活の中で、いくつかの学会で発表する機会があり、少しは歯科医師として成長できたのではないかと感じています。しかしながら、学生実習に参加させていただく中で、教育の難しさ、そして自分の力不足を実感しており、まだまだ勉強をしていかなければならないと思っています。

ます。残りの大学院生活を、より一層充実させ、悔いのないように過ごしていきたいと思います。

**(大学院3年 渡辺 典久)**

○大学院生活も残りあと半年、今回寄稿するに当たり自分のこれまでの大学院生活はどうだったかと考えた。毎日診療を行った後、研究室に行き実験を行い、迷惑をかけたにも関わらず助けて頂いた諸先輩方や同期達のおかげで、非常に充実した生活を過ごさせている。大学院進学に異見を唱える先輩もあったが、博士課程の価値は4年間の生活にこそあると思う。今後はその経験を武器に、臨床家として覚醒し、飛躍していきたいと考えている。

**(大学院4年 岡村 貞之介)**

○最近テニススクールに通うようになってから診療中に変わったことがあります。それは何かというとズバリ診療姿勢です。というのもテニスをした際に腰が痛くなるということがあり、診療姿勢を見直してから痛くなるのが減ったため、意識して姿勢を正すようにしています。勿論筋肉の衰えも原因としてあるとは思いますが…。昨年所謂ぎっくり腰になって以来心配性になっている自分がいます。皆さんも痛くなる前に腰のケアを！

**(社会人大学院3年 関根 尚彦)**

○大阪府北部地震や7月に起きた西日本の豪雨に関する記事を見ているととても居た堪れない気持ちになる。幸い、近畿地方・中国地方に親族はいない。しかし結婚をして子供が生まれてから、災害や事故のニュースを見ては、家族の有難みや離れて暮らす両親の事を気にかける様になってきた。東京に住んでいるが、東京もいつ災害が起こるか分からない。今日かも知れない。そんなことを考えると、現在我が子の保育園の送迎も緊張感が走る。雨の中で乗っている自転車が転倒してしまわない様にとか、子供が急に車道に出ないようにとか、走って転ばないとか。そんなことを考えると、あっという間に1日が過ぎていく今日この頃です。

**(社会人大学院4年 青木 淳也)**





## 桜歯祭にむけて



桜歯祭実行委員長 桐戸 美佳

今年度の桜歯祭は10月5日(金)6日(土)の二日間で開催されます。テーマは“(Re) newal”です。これは“一新”という意味の英単語“renewal”が由来となっており、“再び”という意味の接頭辞である“re”を特に強調しテーマといたしました。新付属病院開設と同時期のこの桜歯祭も伝統を大切にしつつ“再”興、一新するものとなればと考えております。

今年度も各クラブによる模擬店や、カラオケ大会、歯科に関するクイズコーナーなどNU祭、駿技祭、翔衛祭とともに歯学部の学部祭という特色を生かした企画を実施する予定です。また、お笑い芸人の「相席スタート」、「チョコレートプラネット」をお呼びしての芸能ライブ、補綴学会主催の市民フォーラムは先述の新付属病院の大講堂にて開催を予定しております。ご来場いただいた皆様がこれらの企画を通して自分自身の歯、口腔環境について改めて考え、歯科に関して興味を持っていただけたら幸いです。今年度も多くの皆様のご来場を桜歯祭実行委員一同お待ちしております。(第4学年)

## NU祭企画案について



NU祭実行委員長 松村 達也

今年も歯学部では、「いちにち歯医者さん」のテーマのもと、歯科にまつわる7つの企画を用意しています。歯科材料を用いたストラップやネームプレート作り、歯磨き粉作りや自分の口の中の観察、歯の切削の体験、記念撮影など例年通りの企画に加え、桜歯祭と共同で来場者に歯科に関するクイズに答えていただく参加型の企画を用意しています。ご来場いただけた方に歯科体験やクイズを通して歯科についてより一層身近に感じていただけたらと思います。また、新病院での開催になり、より良い環境で歯科の体験ができると思います。例年大好評の企画ですので、ぜひ、ご家族やご友人を誘ってご来場ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。(第5学年)

※桜歯祭・NU祭開催前の原稿です。それぞれの報告は次号に掲載いたします。

## 学生相談室から

学生相談室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談下さい。電話相談【03-3219-8051(相談室直通)】、ご家族からのご相談もできます。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。3号館1階玄関をに入って右手奥に相談室の入り口があります。月曜日の昼休みは、本学教員が、水・木・金曜日の10時～17時と火曜日の11時～18時は、日本大学本部学生相談センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。



## インフルエンザ罹患後の登校停止について

インフルエンザは、11月から翌年3月頃までが流行の時期ですが、最近では4月にもインフルエンザ罹患の届出があります。学校保健安全法では、罹患後の登校停止となる基準を「発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで」と定めています。インフルエンザ様症状(38度を越える発熱)が始まった日(発症日0日)は、医師の確認が必要です。必ず医療機関を受診し、インフルエンザと診断された場合は、学校に登校せずに、速やかに学生課(03-3219-8004)に連絡してください。

罹患後は、学内での感染拡大を予防するため、医師の指示に従い登校停止期間を厳守して治療に専念してください。登校停止期間中の学業については、補講など補完対応を検討します。登校する時は、医療機関で「診断名及び登校許可日」が記入された診断書を受け、欠席届とともに学生課に提出してください。

## 進学相談会の様子 6～9月

6月24日(日)・7月26日(木)・8月18日(土)・8月19日(日)に歯学部進学相談会が、6月24日(日)・7月29日(日)・8月18日(土)・9月15日(土)に附属歯科技工・衛生専門学校進学相談会が行われました。受験希望者・父母等合わせて729名の来場者がありました。

会場には教員による相談コーナーや在校生のブースが設けられ、来場者からは入試科目や適性試験、校友子女入試などについての質問も多くありました。また、実習室において「体験実習」を行い、好評を博しました。

### 《問合せ先》

歯学部 教務課

03-3219-8002 E-mail:de.academic@nihon-u.ac.jp

附属専門学校 専門学校事務室

03-3219-8007 E-mail:de.ts@nihon-u.ac.jp



## 学生生活

### クラブ夏合宿一覧 (8月8日現在)

アメリカンフットボール部	7/31～8/5	長野県上水内郡飯綱町
合気道部	7/28, 8/6～8/7	東京都千代田区 (通い合宿：歯学部)
空手道部	7/21, 7/23～27, 7/30～8/2	東京都千代田区 (通い合宿：歯学部)
剣道部	7/26～8/1	千葉県夷隅郡御宿町
硬式庭球部	7/30～8/12	千葉県長生郡白子町
硬式野球部	7/25～7/29	茨城県神栖市
ゴルフ部	7/23～7/28	茨城県常陸大宮市
自動車部	7/20～7/24	新潟県妙高市
柔道部	7/25～8/1	東京都千代田区 (通い合宿：歯学部)
水泳部	7/24～7/29	静岡県静岡市
スキー部	7/27～7/31, 8/1～8/2	群馬県利根郡片品村 静岡県賀茂郡松崎町
ソフトテニス部	7/26～7/30	千葉県長生郡白子町
卓球部	8/1～8/3	神奈川県横浜市中区
日本拳法部	7/23～7/31	東京都千代田区 (通い合宿：歯学部)
バスケットボール部	7/24～7/27	新潟県妙高市
バドミントン部	7/21～7/24	群馬県利根郡みなかみ町
バレーボール部	7/20～7/23	山梨県南都留郡山中湖
ボウリング部	7/21, 25, 27, 30, 8/1, 8/4～8/5	東京都港区高輪 (通い合宿：品川プリンスホテル) 埼玉県狭山市
ヨット部	7/31～8/6	福岡県福岡市
洋弓部	7/24～29	長野県下高井郡木島平村
ラクビー部	8/11～8/15	長野県上田市
陸上競技部	7/23～7/28	栃木県佐野市
奇術部	8/15～8/20	東京都千代田区 (通い合宿：歯学部)
軽音楽部	7/31～8/5	長野県下高井郡山ノ内町
茶道部	7/25～7/29	静岡県熱海市
写真部	7/21～7/22	静岡県下田市
美術部	8/3～8/4	神奈川県足柄下郡箱根町
ワンダーフォーゲル部	6/9, 8/1, 8/8～8/10	東京都八王子市高尾町 東京都青梅市 群馬県利根郡片品村

## 平成30年度 第2回 公開講座案内 (11月)

日時：平成30年11月10日(土) 13時30分～  
場所：歯学部4号館3階 第3講堂  
講演者：歯科補綴学第Ⅲ講座 准教授 萩原 芳幸  
演題：本当はどうなの？『インプラント治療』  
インプラントに関してよくあるご質問、  
本音でお答えします